

専門学校 東都リハビリテーション学院 学校関係者評価 2020（R2）年度

（１） 教育理念・目標

- ・ 学院としての理念・目的・育成人材像は明確にされていると思う。また、3つのポリシーが明確に示され、周知に力を入れている。令和3年度の計画で、基本理念・教育目標と3つのポリシーを、オープンキャンパス、学校説明会、高校等での説明会、出張講義、学校案内パンフレット等により、受験対象の高校生に積極的に広報することが挙げられているが、学校の広報として重要で、積極的に行われることが望まれる。
- ・ ICT 媒体での周知も加えるとよいと思う。
- ・ 教育目標では、多岐にわたり幅広く活躍できる人材育成となっており、整形外科疾患、スポーツ障害領域の科目が多く配置されているように見受けられるところから、今年度も学生が科目を選択できるシステムを取り入れていく事も今後検討していただきたい。
- ・ 施設で適応するスキルを身に着けるとあるが、リハ適応患者の疾病構造が変化中、そのあたりの具体的戦略が弱いと思う。
- ・ 診療報酬、介護報酬下で活動できる理学療法士育成に向けた教育と高齢者の日常生活活動、介護予防を含めたプログラムも必要で、国民の寿命が延伸し、呼応する形で高齢者や社会のニーズである福祉領域の科目を増やしていく方がよいと考えられる。
- ・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想として、将来の大学設置を目指すなど将来構想は抱いている。社会経済のニーズに関する情報収集をすることで、将来の大学設置を目指していただきたい。また、学術発表、論文作成など研究を行いエビデンスの構築を実践していただきたい。
- ・ 理学療法士の受給逆転とも昨今いわれているので、進学者動向調査のみではなく、就職先のニーズ調査も必要ではないか。
- ・ 人間性の教育に対してはコミュニケーション能力、対人関係マナーについて取り組みがあると実習、就職の際に少しは苦労が少なくなると思う。
- ・ 学校の理念等の周知には自己評価より学校ホームページ、パンフレット等での公開は最低限必要と思われる。また、保護者までは周知されていないように思われるため、3者面談などを行うことで周知されると思う。
- ・ 他校と比較し機能解剖に力を入れていることなどもアピールしてもよいのではないか。貴校の特徴だと思う。
- ・ 学内で講習会、ワークショップを行うことは入学、卒業者には魅力ある企画で、学校選定のインセンティブにつながると思う。
- ・ 東京都理学療法士協会や目黒区の連絡会で力になってもらおうと、理学療法士の間で貴校の素晴らしさをアピールできると思う。高校生の施設見学はいろんな施設が協力しているので、貴校を紹介する機会につながるのではないだろうか。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(2) 学校運営

- ・ 目的等に沿った運営方針は策定されている。運営方針に沿った中長期目標を定めた運営計画が策定されている。
- ・ 緊急事態でも迅速な意思決定に支障がなかったのは高い評価ができる
- ・ 学院長をトップとする学校の組織を明確化し、組織の担当者を中心に事業を企画し運営する、中期重点目標を建てられたので、できるだけ早期に完成させ実践されることを期待し、機能的組織の整備を望みたい。
- ・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備について、学校の規模に合わせた人員が確保されている。
- ・ ミーティング以外にも双方向の情報伝達方法の検討があればさらに良いと思う。
- ・ 教育活動等に関し、教職員の活動がインターネット上で公表されている。
- ・ 教育の質と効率の向上には情報システム化は今後一層必要なものと思われる。費用対効果を検討し、早期に整備した方が良いと思われる。
- ・ 学生の情報管理だけでなく教員の業務の効率化に向けた取り組みが必要と思う。
- ・ 令和2年度はコロナウイルス感染症によって事業計画が定まらず混乱があったが、今年度の状況を踏まえて改善点を抽出し、実践可能な令和3年度計画が立てられている。
- ・ コロナウイルス感染症での実習や実技が行いにくい問題についての対策が立てられていない。入学者確保に偏っているように思う。
- ・ 令和2年度はパンデミックのなかで、感染予防を徹底させ、遠隔授業、オンラインのオープンキャンパス、テレワークなどを実施されてきたことは評価に値する。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(3) 教育活動

- ・ 女性専任教員が数名は在籍していることが望ましい。
- ・ 今年度も教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定について、基本は厚労省の定めるものがベースになるが、教育理念等に含まれる編成実施方針の検討を行っていただきたい。
- ・ 教育到達レベル・学習時間の確保についてはシラバスに則って修業されている。学則の修業年限で教育を展開するため、シラバス記載内容に従って、学習内容、到達レベル、そのための学習時間の確保を重点目標にしているので、これを推進していただきたい。
- ・ 医療・福祉領域のニーズを把握し、実践的な職業教育の視点では実技の時間、考え方に対してもう少し時間を費やすとともに、到達目標に合わせて実習、演習等の時間配分を行っているか再検討することが望まれる。
- ・ 米国の大学や高校などで一般的に使われ、日本の大学等で導入されている GPA (Grade Point Average) 制度のメリット、デメリットを明らかにし、理学療法領域での導入が可能かどうかを検討していただきたい。
- ・ カリキュラムは体系的に編成されている。理念・目的・育成人材像の方針に沿う活動を検討するために、カリキュラム委員会を設置し、科目の配置、内容について検証し、キャリア教育の充実をはかっていただきたい。

- ・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等について、学校評価を起点として検討してもらいたい。
- ・ 到達レベルに達さない学生への対応を検討すべき。
- ・ 実習指導者との連携を深めるとともに、学年担当が面談した情報を共有し、実習環境と教育内容の改善をはかる。関連分野の施設との会議を年1回以上設けていただきたい。
- ・ 授業評価の実施・評価体制について、授業評価を行う組織を編成し、授業評価を実施、この授業評価の結果に基づき、教員へのフィードバックを行うシステムを構築すべきである。
- ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れについて、実習施設からの要望も有効である。関連分野の施設の実習指導者（SV）と連携して学校評価、学生評価を実施するのは如何か。
- ・ 人材育成を強調した専門職養成に関わる教育を目指して、これまでの卒業生輩出 OB、OG の活躍からある程度の実績を持った教員を確保していると思われる。教員の教育研究評価に基づく実績評価と併せた判断材料をそろえる必要がある（昨年と同じ意見）。
- ・ 業界との連携は御校独自の連携があり、興味深いが、授業のみではなく地域貢献のクラブ活動や地域の清掃活動など、学生のマンパワーの地域密着型貢献を推奨することが望ましい。また、日本理学療法士協会等の職能団体と連携した教育貢献等、卒後教育において理学療法士の質向上に資する連携の広がりが大切である。
- ・ 働き方改革を含めこのような学校評価を機に検討すべきか。コストのかかるものなので組織としての取り組みは年1回程度でよいと考える。
- ・ 時間等に余裕があれば臨床実習前の基本的な検査測定、基本的な訓練（可動域訓練など）の復習時間があれば良いのではと思う。
- ・ 夏休み等を利用した任意での短期体験実習の取入れにより経験施設は増える可能性があると考え。（実習地確保の課題はあるが任意なのでそこまで多くならないと思う。）
- ・ 学位のみならず、その他の隣接資格保有も考慮すると良いと思う。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(4) 学修成果

- ・ 就職率100%であるため問題ないが、今後は回復期リハ病棟の動向によっては需要が変わってくると思われるのでその対策は今から検討しておいた方が良い。
- ・ 資格取得率の向上について、国家試験対策を頻繁に行っているので問題ないと思われるが、国家試験合格率については原則100%を目指してほしい。
- ・ 理学療法士の需給逆転が南の方から起こり始めているが、現状把握しておいた方が良いのではないかと。就職が厳しくなってからでは対応が遅いのではないかと。
- ・ 知識面（学力）の対策だけではなく精神面、文章読解力への対策も必要な時代だと思う。
- ・ 1学年目が非常に大切になってくると思う。総論を含め各基礎医学の必要性などをしっかり伝えて、授業に向き合わせるように仕向けてほしい。その知識の必要性を知り興味を持って授業に取り組むことが実習や就職後に役立つのではと思う。
- ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握について、卒業生、全体の活躍の把握は出来ていない。卒後の連絡情報の管理体制の強化、卒後の教育支援のため卒業生向け研修を行い、同窓会活動の

主体活動を側面で支援する方法は有効と思われる。

- ・ 先輩・後輩間、また同期生間のネットワークを支援することが必要であると思う。卒業生、就職先へのアンケートなどを実施して、卒業生間で情報を享受できる仕組みを支援していく。
- ・ 卒業生に関しては就職後現場中心となり外部とのつながりは気薄になりやすいため学院の情報網（連携）を使用しやすい環境整備を考えてはどうか。
- ・ 就職先によっては縁遠くなってしまうこともあるので、貴学の強みの一つであるスポーツ系、整形外科系の勉強会開催も良いのではないかと思う。
- ・ 現在国家資格だけではキャリア形成は不可能な時代になってきている。理学療法士協会の認定専門、また分科学会による学位が求められる時代となっているが、そのような状況の周知や活動経験を聞くようなことも重要ではないか。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(5) 学生支援

- ・ コンパクトな学校なためキャリアセンター等はなく専門的な部署は整備されていないが、専任教員を中心に、全教員が学生の相談に応じる支援を行なわれている。他の教員が対象施設の求人情報を持っている場合は補助として進路・就職の支援にあたり、共同による支援体制がとられている。
- ・ 教職員による学生相談では貴校は優れていると評価している。昨年度の学校関係者評価で指摘した、面談室は整備された。
- ・ メンタルケアは専門家に相談できる体制があることが望ましい。学校の規模を勘案してどのような体制が良いか検討が必要と思われる。
- ・ 現代では心理的健康状態が身体的健康状態に影響しやすいため心理面に対する管理を担う体制づくりを考えて欲しい。
- ・ セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等の人権侵害を防止するための体制を整備する必要がある。
- ・ 学生に対する経済的な支援体制として、奨学金制度の利用や特別分納などの支援が行われている。令和2年度より文科省の「高等教育の修学支援新制度」が適応され、入学当初から相談窓口対応をできる体制が整い、学生支援がより充実してきている。
- ・ 学生の健康管理として定期健康診断などこれまでの体制を維持し、学内の衛生環境の保持や学生の健康管理に務めていただきたい。
- ・ 課外活動に対する支援体制の整備について、クラブ活動などに対する予算計上の問題がある。何らかの方法で学生生活の支援が求められていることを検討していただきたい。
- ・ 部活動に対する補助は継続して行ってほしい。課外活動に関する保険に関しても支援体制が望まれる。
- ・ 病院、施設への対象者とかかわるボランティア情報などが周知できるとよい。また教員に必要性の理解が必要。実習に来た際に高齢の方と会話経験がないなどで、実習期間の多くがその対策にとられてしまい、本来の実習が行えない学生も散見する。必要性を教員が理解する教員教育から行うべきと思う。
- ・ 保護者との連携について、後援会と教職員組織で連携することで教育環境や学生生活の質を高める

支援を担保する体制づくりを長期的視野で構築することが求められる。

- ・ 実家からの通学者が多いようなので保護者との連携強化は必要。
- ・ 卒業後就職を機会に母校から遠のくことが多いため、研修、研究、再就職など卒業生が相談しやすい環境づくりを考えて欲しい。
- ・ 御校では卒業生が授業・臨床実習（非常勤講師・臨床実習指導者）に関わることは学生への教育支援だけでなく、卒業生自身のブラッシュアップ・リカレントにつながり教育の質改善に繋がっている。
- ・ 高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組について、学校訪問を行っている。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(6) 教育環境

- ・ 2019年度の私学財団の助成を受け、検査測定機器、生理学関連機器、運動生理学関連機器、物理療法機器等、大型、中型の機器と装置を購入され、超音波測定機器が寄付された。これらの機器を用いて教育の質の向上、研究の推進をしていただきたい。
- ・ 自然災害や事故を始めとする各種危機事案に対応するためのマニュアルを策定してほしい。
- ・ 防災に対する体制の整備について、防災訓練を行っていないため、防災訓練は年2回行う義務があるので行った方がよい。令和3年度計画に挙げられている。
- ・ 外部資金による研究助成金の獲得に向けて、大学化を見据えた段階的な中・長期計画が求められる。
- ・ 臨床実習中に、可能な学生はクラス単位でGoogle class roomを行うなど孤立感を減らすことや、複数人同施設同時実習を企画するとよいのではと思う。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(7) 学生の受入れ募集

- ・ オープンキャンパス、高校等での説明会、出張講義、学校案内パンフレット等により、受験生に対する広報活動が適正に行われている。
- ・ 学費がやや高い印象はあるが、立地や教育環境等を考えると妥当である。学生等からの評価を考慮する必要がある。学校に対する満足度、および学校に対する人気度、入学者を増やすためにも検討することは必要である。
- ・ 要望に応じてインターンシップあるいは高校での出張講義の取り組みを広げていって欲しい。
- ・ 今後は進学率や退学者数、さらには修学年数など在校生の状況などについてアナウンスすることが望ましい。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(8) 財務

- ・ 中長期的に学校の財務基盤について、運営基盤の強化を図るため学生数の確保等重要課題が反映された中長期計画の作成が求められる。
- ・ 将来性、社会性、継続性の観点から予算及び収支計画を常に検証し、有効かつ妥当な整備・運用を推進する。
- ・ 財務情報公開の体制整備について、情報公開の充実により、学校法人の運営の透明性を示していく。

改正寄附行為に準じた適切な財務情報公開を図る。

(9) 法令等の遵守

- ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営について、適正な運営と考えられる。
- ・ 個人情報保護対策については、規定を設けて早急に検討しておく必要がある。パンフレットの在学学生の実名等を掲載する場合、あらかじめ公開同意を得ておくことは必須であり、データ等の取り扱いについて個人情報保護法に基づく適正な取り扱いについて学校で規定を策定した方がよい。
- ・ 個人情報保護に関わる項目、内容、実施方法などが記載されたマニュアルを作成していただきたい。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献について、目黒区・杉並区のボランティアを教員が行い、講堂を使用して、ちびっ子レスリングの指導を実施している。また、依頼があれば勉強会等に施設や評価機器等を貸与している。
- ・ 日本、東京などの理学療法士協会などに貸し出し、就職後のイメージを持っていただけるよう工夫するのはいかがか。
- ・ 渋谷という立地を生かした、校内に留まらずに公開講座を行うなど検討してもよいのではないか。
- ・ 病院、介護施設などから依頼されるボランティア活動へ積極的に取り組んでおり、今後も多方面への学生主体のボランティア活動への推奨を進める必要がある。
- ・ 介護老人保健施設や病院からの依頼・募集があった際は学生のボランティア活動の参加を紹介・奨励等、促しているが数は少ない。教職員がこれまで継続してきた地域貢献、社会貢献を開催するとき、企画の段階から学生参加を促し、ボランティア活動として参加させる方法は実効性が高いと考えられる。
- ・ 中・高等学校での出張講義を実施し、医療・福祉領域での専門職の役割と業務について講演されるなど積極的な貢献を要望する。
- ・ 令和3年度計画は実現可能であると思われる。